

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

広島県

学校名

広島県立日彰館高等学校

人権課題

外国人、子供

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年・
特別活動

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様性を認め合い、互いの文化に対する理解を深めるとともに、互いの文化を尊重しようとする態度を養う。

実施した内容

- ・「吉舎おもてなしプラン」に向けた事前学習として、「JICA国際協力出前講座」を実施した。講座では、講義を通して異文化に対する理解を深めたり、演習を通して異文化に出会ったときの疑似体験を行い異文化を尊重しようとする態度を養ったりした。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・知識を深めるだけでなく、人権尊重の態度を養うようにするために、講義だけでなく演習も取り入れ、生徒が実感をもって多文化を尊重する意欲を高めることができるように工夫した。
 - ・文化や考え方の違いは、外国人に対してだけではなく、生徒同士でもあてはまり、お互いを尊重して生活することが大切であることを生徒が実感できるよう工夫して指導を行った。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 歴史総合や地理総合の学習内容とも関連付けて指導を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：「世界には多様な文化や価値観があることを知っている。」
事業開始時：81.69%⇒事業終了後：89.71%
- ・ 価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」
事業開始時：70.42%⇒事業終了後：83.82%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ人に対して関わることができる。」
事業開始時：60.56%⇒事業終了後：67.65%

<事業終了後の生徒の言葉>

- 文化を理解し合うことが平和への第一歩だと感じました。
- 人間は無意識に外見で判断し、似た人とグループを作ろうとするとおっしやっていたことから、外見だけで判断せずその人の背景等も知った上で判断すべきだと思いました。
- 外国人の方に対しても、それ以外の方に対しても、文化の違いを否定せずに認め合うことが大切だと思いました。
- 日本の価値観や常識を押し付けるのではなく、相手の方の考え方や意見をしっかり聞くことが大切だと思いました。
- 「吉舎おもてなしプラン」では、それぞれの文化を生かして楽しく話がしたいです。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

広島県

学校名

広島県立日彰館高等学校

人権課題

外国人、子供

対象学年・
取り扱った教科等

第 1～3 学年・
特別活動

時数等

6 時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様性を認め合い、互いの文化に対する理解を深めるとともに、互いの文化を尊重しようとする態度を養う。

実施した内容

- ・異文化理解教育プログラム「吉舎おもてなしプラン」として、広島大学の留学生を学校に招き、日本の文化紹介や吉舎街歩きガイドツアーで生徒がおもてなしをしたり、留学生から自国の文化を紹介してもらったりした。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・事前学習として行った「JICA国際協力出前講座」の内容を踏まえて、生徒が留学生との交流の仕方考えられるように指導を行った。
 - ・PDCAサイクルを意識した学校行事の活動計画を立てており、当日の活動だけでなく事前の準備や事後の振り返りも重視して取組を行った。本取組についての生徒の振り返りが次の学校行事につながるようにしている。
 - ・生徒が主体的に取り組むことができるよう、事前に町を歩きながら英語で説明をしたり、吉舎の文化を英語で紹介する練習をしたりした。また、留学生に対する事前の説明会にも生徒の代表が出席し、英語で説明を行った。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・総合的な探究の時間における「吉舎の宝」「異文化理解研究」の学習内容と関連付けた指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：「世界には多様な文化や価値観があることを知っている。」
事業開始時：81.69%⇒事業終了後：89.71%
- ・価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」
事業開始時：70.42%⇒事業終了後：83.82%
- ・技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ人に対して関わることができる。」
事業開始時：60.56%⇒事業終了後：67.65%

<事業終了後の生徒の言葉>

- 言葉や文化の違いを楽しみながら、お互いを理解し合う大切さを学ぶことができました。
- 多くの人と協力して進めることで、楽しくなり、それがきっかけで自己肯定感が上がり、自分に少し自信を持つことができました。
- 「吉舎おもてなしプラン」で学んだ、自分の意見や考えを積極的に伝えることと、自分の意見に自信を持つことを、これからの学校行事や学校生活で生かしていきたいです。
- もっと英語力とコミュニケーション能力を上げて、積極的に話しかけていきたいです。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

広島県

学校名

広島県立日彰館高等学校

人権課題

高齢者・障害者

対象学年・
取り扱った教科等第 1 学年・
総合的な探究の時間

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

- ・地域での高齢者や障害者との共生に係る講演を通して、社会における協働について理解を深める。

実施した内容

- ・三次市役所吉舎支所の職員等から吉舎地域の概況について聞くとともに、生徒が今後地域にどのように関わっていくのかを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・三次市役所吉舎支所、吉舎町自治振興会連合会、吉舎よいとこ発見隊といった、吉舎で地域のために活動している様々な方から地域について説明していただくことで、生徒が吉舎のよさや現状等について多角的に理解することができるようにした。
 - ・上記のゲストティーチャーによる話をもとに、生徒が今後どのように地域と関わっていくのか話し合う機会を設けることで、地域においてどのように共生社会を実現していくのかを生徒が主体的に考えられるようにした。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・総合的な探究の時間における「異文化理解研究」や学校行事「吉舎おもてなしプラン」につながるように学習内容を構成している。

事業成果

- ・知識的側面：「高齢者や障がい者との共生について理解している。」
事業開始時：54.93%⇒事業終了後：60.29%
- ・価値的・態度的側面：「他人の考え方や立場を尊重しようとしている。」
事業開始時：84.51%⇒事業終了後：89.71%
- ・技能的側面：「自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。」
事業開始時：66.20%⇒事業終了後：72.06%

<事業終了後の生徒の言葉>

- 想像していた以上に地域の人口が減っていることに驚きました。一度出ていった人たちが帰ってきやすい町をつくっていかねばならないと思いました。
- 日彰館高校を受験する中学生を増やすためには、自分たちが活動等を伝えていかねばならないということが分かりました。これから、日高祭（文化祭）に向けて準備を頑張りたいと思います。
- 吉舎地域にはいろいろな人が住んでいて、高齢者や障害者も含め、みんなが幸せに暮らせるような地域にすることが大切だと改めて感じました。これから自分たちに何ができるのか考えていきたいです。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

広島県

学校名

広島県立日彰館高等学校

人権課題

インターネットによる
人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

第1～3学年・
特別活動

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・「SNSによる人権侵害」をテーマとして、よりよい人間関係の在り方について学ぶことで、自他を認め、尊重する態度を育成する。

実施した内容

- ・体育祭に向けた事前学習として、NTTドコモから講師を招いて「スマホ・ネット安全教室」を実施した。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・普段のスマホやSNSの使い方、SNSを通じた人間関係について振り返った後に本講座を行うことで、生徒がより主体的に学習するようにした。
 - ・本講座を体育祭に向けた事前学習として実施することで、体育祭の準備や当日において生徒が協働して取り組もうとする意欲を高めるようにした。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 学校行事「体育祭」やその後の「吉舎おもてなしプラン」につながるように学習内容を構成している。

事業成果

- ・ 知識的側面：「インターネットによる人権侵害について理解している。」
事業開始時：57.75%⇒事業終了後：77.94%
- ・ 価値的・態度的側面：「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。」
事業開始時：70.42%⇒事業終了後：83.82%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。」
事業開始時：66.20%⇒事業終了後：72.06%

<事業終了後の生徒の言葉>

- 友達とのチャット等、身近にある簡単なことも問題になってしまうということが分かり、改めて使い方や話し方を見直そうと思います。
- 体育祭の準備のことで友達と連絡を取るときは、相手を傷つけないように工夫します。例えば、グループチャットでの連絡のときは中立的な立場で反応したり、内容によっては個別に連絡を取るようにしたいです。また、直接話し合うときには、状況を確認しながら話し合いを進めることで、みんなで協力して進めていきたいです。